

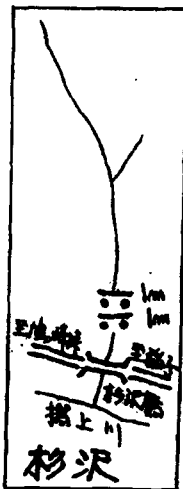
特集・摺上川流域の溪谷

1983年の記録から

杉 沢

1983年6月12日

L1



国道399号線ぞいの稲子部落を過ぎて少し進むと、小さな杉沢橋に着く。この橋のたもとから遊行を開始するが、沢幅は狭いし兩岸も低く平らな為、どうも沢登りという感じがしない。

何の変哲もない小沢を中程までつめた頃、突然目の前をカモシカが逃げていった。カモシカの方もこんなところで人間に会うとは思ってもいなかっただろう。

この先は、次第に水量も少なくなり、兩岸の木が生い茂ってトンネルのようになってきたので、10:20遊行を打ち切って、出発点に戻る。

結局、最後まで滝の1つもなく、春の小川といった感じの沢であった。

(記)

[タイム] 杉沢橋(8:55)→遊行中止点(10:20)→杉沢橋(11:30)

後沢左俣

1983年9月18日

ある地域の沢のすべてを遊行してしまおうという計画を実行していると、いずれは「この沢には滝などないはず」とわかっている沢にも入らねばならない時がくる。後沢もそうした沢の1つ。滝といえるものもないまま瀬頭に達してしまった。おまけに伐採・植林用の林道が沢と並行して走っているときた。とにかくこなさねばという使命感から遊行した1日だった。

8:35後沢橋より遊行開始。何もない沢を10分程歩いた所で猿の群れに会った。姿を確認したのは13頭であったが、鳴き声やブッシュの動きからしてもっと多くの群